

教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
国語	国語総合 (現代文)	2/4	1年	改訂版高等学校国語総合 (第一学習社)	「クリアカラー国語便覧」 数研出版 「ステージアップ漢字」 浜島書店 「力をつける現代文」 数研出版

到達目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。
到達目標に向けての 具体的な取組み 【指導上の留意点】	現代文の多彩な文章に慣れ親しむことで、国語に対する感覚を磨くように指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・意味調べ等の学習活動を通して、生活の中で必要な語句の意味、表記の仕方を理解させる。 ・できるだけ多くの分野の文章を読むことで、さまざまな視点に触れさせ表現力を学ばせる。 ・単元ごとに意見文、感想文、創作、話し方など課題を与え、表現力を養わせる。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	「知的創造のヒント」 (外山滋比古)	・筆者のものの見方、感じ方、表現の仕方を理解する。	・ノート・課題提出	・意味調べ等の課題をきちんとしているか。
5	「人間はどこまで動物か」 (日高敏隆)	・小説の文章に親しみ、登場人物の心情を読みとる。	・漢字小テスト	・授業をよく聞き、大事なところをノートできているか。
6	「羅生門」 (芥川龍之介)	・評論を読み込み、論理的な思考力を養う。	・感想文、意見文の提出	・漢字力・語彙力が定着しているか。
7		・さまざまな詩の読解をとおして、感受性を磨き、想像力を養う。	・創作	・文章の内容を正しく理解しているか。
8		・短歌や俳句に親しみ、その鑑賞方法について学ぶ。	・定期考査	・主体的な自己の読解を試みているか。
9	「贅のうへ」 (三好達治)	・語句の意味調べ、下読みをして疑問点を挙げておくなど、作品を読むための準備をして授業に臨む姿勢を養う。		・自分の意見、感想などを適切に表現できているか。
10	「一つのメルヘン」 (中原中也)			・自分の主張を、聞き手に納得させられるよう、正確な言葉で話すことができるか。
11	「木」 (田村隆一)			
12	「水の東西」 (山崎正和)	・各単元ごとに読後の感想や意見文をまとめる。		
1	「材のいのち」 (幸田文)	・話題を選んでスピーチをする。		
2	「自分・この不思議な存在」 (鷺田清一)	・韻文などの創作。		
3	「短歌と俳句」	・演習問題に取り組み、限られた時間で文章を読解する力を養う。		
4	「夢十夜」 (夏目漱石)	・日本文学史に関する正確な知識を身につける。		
5	「世界中がハンバーガー」 (多木浩二)			
6				

国語総合（古典）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
国語	国語総合 (古典)	2/4	1年	改訂版高等学校 国語総合(第一学習社)	「クリアカラー国語便覧」数研出版 「二訂版楽しく学べる基礎からの古典文法」 第一学習社 「読解トレーニング古典の演習」啓隆社

到達目標	古典に慣れ親しむことにより、国語の能力を育成し、豊かな感性を養う。
到達目標に向けての 具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣い、古語辞典の活用、古典文法、漢文の訓読など、古典を読む基礎知識を身につけさせる。 音読、暗唱などを通して、文語特有のリズムや響きを味わい、楽しませる。 古典作品を通して、日本文化や中国文化への理解を深めさせる。

月	速度(単元・章・項)	指導内容(項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	古文入門 《児のそら寝》 歴史的仮名遣い、いろは歌等 《顕宗といふ笛吹き》	<ul style="list-style-type: none"> 古文や漢文と現代文の違いを理解し、古典を読む基礎を学ぶ。 古典文法の基礎、古語を理解し、古文を読む力を養う。 漢文訓読の基礎を理解し、漢文を読む力を養う。 作品の時代背景を知り、筆者のものの見方、感じ方、表現の仕方を理解する。 作品を読むための準備をして授業に臨む姿勢を養う。 	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 ・ノート点検 ・課題提出 ・文法小テスト ・感想文提出 ・音読・暗唱テスト ・定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 古語辞典・文法書などを活用し、語句の意味調べや現代語訳など予習ができてきているか。 授業への主体的な取り組みがなされているか。 文章の内容を正しく理解しているか。 古文の基礎知識が定着しているか。 作品成立の背景を文学史の中でとらえようとしているか。 漢文の基礎知識が定着しているか。 音読、暗唱が流暢になされているか。 事後学習に活用できるノート作りができてきているか。
5	口語訳の留意点等 用言の活用(動詞) 物語を楽しむ			
6	「竹取物語」～かぐや姫のおひたち 用言の活用(形容詞・形容動詞)			
7	係り結び			
8	随筆を楽しむ 「徒然草」～つれづれなるままに、ある人弓射ることを習ふに			
9	漢文入門 訓読に親しむ(訓読の基礎)			
10	故事 《漁父之利》《狐借虎威》			
11	物語を楽しむ 「伊勢物語」～芥川、東下り 助動詞の働き			
12	古代の史話 《先従隗始》 和歌の世界 「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」 和歌の修辞			
1	軍記物語の世界 「平家物語」～木曾の最期 敬語の種類と用法			
2	漢詩の鑑賞 唐詩の世界～春暁、静夜思、春望			
3	漢詩のきまり			

教科・科目別年間指導計画

副教材名等

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副読本名
地理 歴史	地理A	3	1	高等学校改訂版地理A(第一学習社) 新詳高等地理初訂版(帝国書院)	新編地理資料2012(とうほう)

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読図などの作業を行い、地図情報を実生活の中で活用できる素養を身につけさせる。 ・地形について学習する。地形が人間にどのような影響を与えているか考察させる。 ・世界の気候について学習する。気候が人間にどのような影響を与えているか考察させる。 ・世界の農業について学習する。人間の営みの源である農業を通して様々な人間の社会について考察させる。 ・世界の環境問題、人口問題、食糧問題などさまざまな問題・課題を考察させる。 ・人間のさまざまな事象を系統地理的、地誌的に考察し、認識を深め、私たちの生活文化と他地域の人々の生活文化の共通点・相違点を探り、国際理解を深める。
到達目標に向けての具体的な取組み【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な地理事項をしっかりとおさえつつも、その暗記だけにとらわれぬよう、事項間の因果関係や歴史上の意味の説明にも時間をとる。 ・単なる抽象的知識にとどまらぬよう、白地図での作業やプリント中の作業も取り入れて、理解力を養う。

評価のポイント評価方法等

月	速度(単元・章・項)	指導内容(項目/活動)	評価方法など	評価のポイント
4 5 6 7	第1編 地理情報の活用と現代世界の特色 1章 球面上の世界と地図 2章 グローバル化する現代世界 4章 身近な地域の調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方、種類、活用 ・国家、国境・領土問題 ・国家を越えた結びつき ・交通機関の発達と縮小する地球世界 ・情報・通信で一体化する世界 ・人・「もの」・資本で結びつく世界 ・地形図で地域の特徴を知ろう ・地域調査の方法 ※地理図表を効果的に活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(プリント等) ・白地図作業への取組み方 ・定期考査 ・授業中の態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図作業 ・プリントをきちんと書いているかどうか、また説明を聞いて必要な部分をメモしているか。 ・授業に集中しているか。 ・他、提出物がきちんと書けているか。
9 10 11 12	第2編 世界の諸地域の地域性 1章 世界の人々の生活をとりまく環境 2章 世界の諸地域の生活文化と環境 3章 近隣諸国の生活・文化と日本の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな環境のなかで生きる人々 ・世界的視野からみた地形 ・さまざまな地形と生活 ・世界の気候区と植生 ・世界の気候と生活 ・世界の民族の生活と文化 ・生活・文化を支える産業の地域性 ・東南アジアの暮らしを学ぶ ・南アジアの暮らしを学ぶ ・西アジア・北アフリカの暮らしを学ぶ ・中南アフリカの暮らしを学ぶ ・ヨーロッパの暮らしを学ぶ ・北アメリカの暮らしを学ぶ ・中央・南アメリカの暮らしを学ぶ ・オセアニアの暮らしを学ぶ ・中国の暮らしと日本の関係を学ぶ ・韓国の暮らしと日本の関係を学ぶ ・ロシアの暮らしと日本の関係を学ぶ ※地理図表を効果的に活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(プリント等) ・白地図作業への取組み方 ・定期考査 ・授業中の態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・白地図作業 ・プリントをきちんと書いているかどうか、また説明を聞いて必要な部分をメモしているか。 ・授業に集中しているか。 ・他提出物がきちんと書けているか。
1 2 3	グループ発表 第3編 現代世界の地球的課題 1章 さまざまな地域からみた地球課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人口問題 ・食糧問題 ・住居・都市問題 ・資源・エネルギー問題 ・地球環境問題 ※地理図表を効果的に活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・提出物(プリント等) ・白地図作業への取組み方 ・定期考査 ・授業中の態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容は優れているか、しっかり調べているか、協力しているか、わかりやすいか ・白地図作業 ・プリントをきちんと書いているかどうか、また説明を聞いて必要な部分をメモしているか。 ・授業に集中しているか。 ・他、提出物がきちんと書けているか。

指導と評価の年間計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
数学	数学 I	3	1 学年	数学 I (啓林館)	アドバンス プラス 数学 I + A (啓林館)

到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	講義は予習を前提に行い、基礎から標準へのステップアップを目指す。基礎的な知識の定着を図るための演習は、予め指示しておいた問題を黒板に解答させて行うなど、数学的に考察し表現する能力を高められるよう配慮する。 また、二次関数の値の変化や図形と計量においては、コンピュータを有効的に活用し、事象を具体化した教材を提示する。小単元毎の小テスト・演習プリントを通じて、生徒の理解度を確認し、理解を深められるように配慮する。

月	単元	指導内容 (項目)	評価方法	評価のポイント
4月	第1章 数と式 第1節 整式	1 整式とその加減	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」 「思考・判断」の 各観点に基づき、下記の点により 総合的に評価する。	・ 机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子をみる。
5月		2 整式の乗法		
6月	第2節 実数	3 因数分解	・ 授業(取り組み状況)の観察	・ 確認プリント等の添削結果をもとに、自ら考え直して、計算、公式等を正しく理解していくを確認する。
6月	第3節 方程式と不等式	1 実数		
7月	第4節 集合と命題	2 絶対値	・ 出席状況	・ 積極的に問題を解こうとしているか。
7月		3 平方根		
8月	第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ	1 1次不等式	・ ノート点検	・ いろいろな解答例を考える(調べる)ことができるか。
8月	2 絶対値と方程式・不等式			
9月	第2節 2次関数の最大・最小	3 2次関数の決定	・ 課題レポート	・ 確認小テスト
9月		1 2次関数の最大・最小		
10月	第3節 2次関数と方程式・不等式	2 最大・最小の応用 ◎文字を含むときの最大・最小	・ 定期考査	・ いろいろな解答例を自分のものにしようとしているか。
10月		1 2次関数のグラフとx軸との共有点 ◎ 放物線と直線の共有点		
11月	第3章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比	2 2次不等式とその解		
12月	第2節 鈍角の三角比	3 2次不等式の応用		
12月		1 正接・正弦・余弦		
1月	第3節 正弦定理と余弦定理	2 三角比の相互関係		
2月	第4節 図形の計量	1 0° ≤ θ ≤ 180° の三角比		
3月		2 三角比の相互関係		
3月		1 正弦定理		
		2 余弦定理		
		◎ 三角形の形状		
		1 図形の面積		
		2 空間図形の計量		
		◎ ヘロンの公式		
		◎ 立体に内接する球		

指導と評価の年間計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
数学	数学A	2	1 学年	数学A (啓林館)	アドバンス プラス 数学 I + A (啓林館)

到達目標	場合の数と確率・整数の性質または図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	様々な具体例を示しながら、基本概念が把握できるように丁寧な説明を行う。 易しいと思われている事柄から、やや高度な問題に至るまで、いろいろな題材を用いて、生徒の関心を高められるようにする。また、数学的な記号の使い方、表現の仕方についてのセンスを高める。 副教材も活用して、演習が十分できるよう手助けする。

月	単元	指導内容 (項目)	評価方法	評価のポイント
4月	第1章 場合の数と確率式 第1節 場合の数	1 集合と要素の個数	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」 「思考・判断」の 各観点に基づき、下記の点により 総合的に評価する。 ・授業(取り組み状況)の観察 ・出席状況 ・ノート点検 ・課題レポート ・確認小テスト ・定期考査	・机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子をみる。 ・確認プリント等の添削結果をもとに、自ら考え直して、計算、公式等を正しく理解していくを確認する。 ・積極的に問題を解こうとしているか。 ・いろいろな解答例を考える(調べる)ことができるか。 ・いろいろな解答例を自分のものにしようとしているか。
5月		2 場合の数		
6月	第2節 順列・組合せ	3 和の法則		
7月	第3節 確率とその基本性質	4 積の法則		
8月	第4節 独立な試行の確率	1 順列		
9月	第5節 条件つき確率	2 いろいろな順列		
10月	第2章 整数の性質 第1節 約数と倍数	3 組合せ		
11月		1 条件付き確率		
12月		2 確率の計算		
1月	第3章 図形の性質 第1節 三角形の性質	3 整数の除法と余りによる分類	・授業(取り組み状況)の観察 ・出席状況 ・ノート点検 ・課題レポート ・確認小テスト ・定期考査	・机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子をみる。 ・確認プリント等の添削結果をもとに、自ら考え直して、計算、公式等を正しく理解していくを確認する。 ・積極的に問題を解こうとしているか。 ・いろいろな解答例を考える(調べる)ことができるか。 ・いろいろな解答例を自分のものにしようとしているか。
2月		1 ユークリッド [*] の互除法		
3月	第2節 ユークリッド [*] の互除法	1 自然数と最大公約数・最小公倍数		
4月	第3節 整数の性質の活用	2 倍数の見分け方		
5月	第3章 図形の性質 第2 円の性質	3 二元一次方程式		
6月		1 分数と小数		
7月		2 n進法		
8月		1 直線と角		
9月		2 三角形の辺と角の大小		
10月	3 三角形の重心・内心・外心	・授業(取り組み状況)の観察 ・出席状況 ・ノート点検 ・課題レポート ・確認小テスト ・定期考査		
11月	4 メラネウスの定理とチェバの定理			
12月	1 円周角の定理とその逆			
1月	2 円の内接・外接する四角形			
2月	3 接線と弦のなす角			
3月	4 方べきの定理			
4月	5 2つの円の位置関係			

化学 I

教科	科目	単位数	学年	教科書名	副教材名等
理科	化学基礎	3	1	化学基礎（実教出版）	エクセル化学基礎（実教出版）

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学が物質を探求し、創造する学問として、人類に貢献していることを理解する。 2. 物質の構成粒子とそれが構成する物質、及び様々な化学変化によって別の物質をつくることを理解する。 3. 物質についての概念、原理、法則などを身近な物質や現象を通して理解し、生活に関連した科学的自然観や思考力を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校理科との関連を大事にする。 ・身近な物質や現象の例を効果的に引用する。 ・実験等の探求活動を効果的に配置し、理解を深めるように工夫する。

月	指導項目	指導内容	評価の方法	評価のポイント
4 5 6 7	◇物質の構成 ・物質の探求 ・物質の構成粒子 ◇物質と化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 金属と金属結合	<ul style="list-style-type: none"> ・物質が原子、分子、イオンから構成されていることを理解させる。 ・構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解させる。 ・原子の電子配置からイオンとイオン結合、共有結合、金属結合を理解し、物質の性質もあわせて理解させる。 	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 の各観点に基づき、 下記の項目で評価する。 ◇評価の項目	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み方 ・授業内容の理解 ・実験への意欲 等について以下の 内容で評価。 ①定期考査の点数 ②課題等の提出状況と内容、点数等
9 10 11 12	◇物質の変化 ・物質質量と化学反応式 ・酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・原子量、分子量、式量などの物質の基本事項 ・化学反応式の意味（関わる物質と量的関係）を理解させる。 ・化学史と基本的な法則の発見の経緯 ・水溶液の液性とその強弱を水素イオン濃度から理解させ、pHについて説明 ・酸、塩基の性質と中和反応に関する物質の量的関係について ・中和滴定と滴定曲線 	①定期考査 ②課題等 ・実験への取り組み ・実験のレポート ・授業ノート ・小テスト ・課題プリント ・授業態度 等。	
1 2 3	◇物質の変化 ・酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化、還元の定義を理解し、酸化還元反応を電子の授受によって説明 ・酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係 ・酸化還元反応と日常生活や社会生活とのかかわりについて説明 		

地学基礎

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	地学基礎	2	1	高等学校 地学基礎 (第一学習社)	セミナー地学基礎 (第一学習社)、

到達目標	自然の事物や現象に関する観察や実験などの活動を通じて、自然に対する科学的な見方や考え方を学んでいく。
到達目標に向けての具体的な取組	可能な限り実験・実習を行い、そこで得た実験結果・観察結果や新たに生じた疑問を日々の授業の中で生かしていく。
【指導上の留意点】	実験・実習の実施に際しては、事前事後の指導を十分に行い、実験・実習の意味やそこから得られる結論を理解させる。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4 5 6 7 8	宇宙における地球 宇宙の構成 太陽 太陽系の中の地球	宇宙の成り立ち、太陽系の宇宙における位置づけを理解させる。 太陽系全体を概観し、その中での地球の位置づけを理解させる。 原始地球の状態を理解させ、現在の地球に至る過程を学ばせる。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、5回の定期考査と授業時の意欲・積極性、実験・実習時の態度・意欲およびレポートをもとに評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できているか 実験・実習の意義が理解できているか 実験・実習に意欲的に取り組んでいるか 実験・実習の結果をうまくまとめられるか
9 10 11 12	活動する地球 地球の姿 火山活動と地震 移り変わる地球 地層や岩石と地質構造 地球環境と生物界の変遷	現在の地球の特徴と変動する地球の姿を学ばせる。 現在の地球表面の様子を概観し、それが地球内部の力と水のはたらきの相互作用によるものであることを理解させる。 生命がどのような環境の中で誕生し、地球環境の変化に応じて、生物がどのように変わってきたかを、視聴覚教材を利用しながら学ばせる。		<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できているか 実験・実習の意義が理解できているか 実験・実習に意欲的に取り組んでいるか 実験・実習の結果をうまくまとめられるか
1 2 3	大気と海洋 地球の熱収支 大気と海洋の運動 地球の環境 地球環境の科学 日本の自然環境	大気の循環のメカニズムを紹介し、その一環としての気象現象を理解させる。同時に海洋と大気の相互作用についても紹介する。 地球温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題を科学的に分析し、今後の展望を紹介する。 地震災害・火山災害に対する心構えを学ばせる。		<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できているか 実験・実習の意義が理解できているか 実験・実習に意欲的に取り組んでいるか 実験・実習の結果をうまくまとめられるか 自分なりの防災計画を立案させ合理性があるか

教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
外国語	英語 I	3	1	MAINSTREAM I	DUAL SCOPE English Grammar in 27 Stages 及び ワークブック デュアルスコープ総合英語

到達目標	Reading, Writing, Listening, Speaking の4技能全てを高める。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> * 予習を徹底させる。 * 様々なジャンルの英文を読むなかで、英文を正確に早く読みとる力をつける。 * 文法事項については、出来るだけ多くの問題に取り組むことにより基礎的知識の定着をはかる。 * 単語・Idiomや文法事項の小テストをこまめに行い、動機づけをするとともに学習の習慣をつける。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	Mainstream Lesson 1 Dual Scope 第1～3章	Mainstream 歴史、言語、人生、社会をテーマにした英文を読む。	* 定期考査 * 小テスト	* 予習をきちんと行っている * 英文の内容を早く正確に読みとることができる。
5	Mainstream Lesson 2 Dual Scope 第4～6章	Dual Scope 文の種類、文の成り立ち、時制、完了助動詞、動詞の態	* 提出物 (ノート・プリント等) * 授業観察	* 英語を正しく発音できる。 * 授業を積極的に真剣に受けている。
6	Mainstream Lesson 3 Dual Scope 第7章～9章	*定着をはかるため、参考書とwork bookを活用しての問題演習		
7	Mainstream Lesson 4 Dual Scope 第10章～12章			
8				
9	Mainstream Lesson 5 Dual Scope 第13～15	Mainstream 文化、社会、科学、環境をテーマにした英文を読む。	* 定期考査 * 小テスト	* 予習をきちんと行っている * 英文の内容を早く正確に読みとることができる。
10	Mainstream Lesson 6 Dual Scope 第16章～18章	Dual Scope 不定詞、動名詞、分詞比較 *定着をはかるため、参考書とwork bookを活用しての問題演習	* 提出物 (ノート・プリント等) * 授業観察	* 英語を正しく発音できる。 * 授業を積極的に真剣に受けている。
11	Mainstream Lesson 7 Dual Scope 第19章～21章			
12	Mainstream Lesson 8 Dual Scope 第22～24章			
1	Mainstream Lesson 9 Dual Scope 第25章～27章	Mainstream 科学、人生をテーマにした英文を読む。	* 定期考査 * 小テスト	* 予習をきちんと行っている * 英文の内容を早く正確に読みとることができる。
2	Mainstream Lesson 10 Dual Scope EL. 4～6	Dual Scope 関係詞、仮定法、話法、否定、無生物主語・名詞構文 *定着をはかるため、参考書とwork bookを活用しての問題演習	* 提出物 (ノート・プリント等) * 授業観察	* 英語を正しく発音できる。 * 授業を積極的に真剣に受けている。
3				

教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
外国語	オーラルコミュニケーション I	2	1	Birdland	ALT、JTEが作成する教材 デュアルスコープ 及びワークブック 参考書 デュアルスコープ総合英語

到達目標	Communication能力、communicationに必要な文法能力及び入試に対応できるListening能力、文法能力の育成。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<p>* Bonus Point、Pair Work、interview testの手法を用いて、生徒に積極的に発言する態度やcommunication能力を育成する。</p> <p>* 普段から、ALTとのCommunicationや定期テストにListening Testを20分間程度課すことで、listening能力の向上を目指す。</p> <p>* 暗唱・音読・問題演習等を通じて、入試及びcommunicationに必要な英文法の能力を養成する。</p>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	日常会話	映画のワンシーンを用いて、生の英語を聞き取り、話せるようにする	定期考査 (listening test含む)	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習が確実にできている。 授業中に、積極的に発言できる。 ALTの質問に正確に答えられる。
5	自己紹介	自己紹介する <あいさつする> 家族を紹介する <紹介する>	小テスト 提出物 (ノート・プリント) 授業観察 interview test	
6	学校生活 趣味	興味を述べる 理由を述べる 経験を述べる		
7	映画・テレビ	好みを述べる 評価・説得する		
8				
9	食事	食べ物を説明する 勧める	定期考査 (listening test含む)	
10	健康	症状を説明する・助言する	小テスト 提出物 (ノート・プリント) 授業観察	
11	家事 習慣・風習	頻度を述べる 時間を述べる 義務・必要を述べる		
12	旅行 スピーチの暗唱	予定を述べる 誘う スピーチの解釈		<ul style="list-style-type: none"> スピーチにしっかりと取り組んでいる。
1	買い物 スピーチの暗唱	店でのやりとり スピーチの練習		
1	PARTY スピーチの暗唱	PARTYでのやりとり スピーチの暗唱	定期考査 (listening test含む) 小テスト 提出物 (ノート・プリント) 授業観察	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習が確実にできている。 授業中に、積極的に発言できる。
2	進路	比較する		<ul style="list-style-type: none"> ALTの質問に正確に答えられる。 暗唱がしっかりとできている。
3				

音楽 I

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
音楽	音楽 I	2	1	Mousa I	なし

到達目標	音楽を自ら奏でることを通して自分を表現する力を、またその準備のための練習を通して自主的・主体的に行動し、判断できる力を育む。また合唱やアンサンブルを通して他人と関わることの大切さ、相手を思いやる心を育てる。
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	合唱をする中で、音楽を奏でる感動を体感する。またグループ単位での音楽活動を自主的に進める。声楽(発声方法)・器楽(リコーダー)の基礎を身につけ、日本の伝統文化のひとつである篠笛の基礎知識(演奏も含める)をつけ、興味を広げる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	◇基本的な発声練習	発声方法を実践的に学ぶ。 2人以上、4人以下の重唱を通してハーモニー感のある発声方法を身につける。	・うたの実技試験	・真面目に取り組んでいるか。
5月 6月 7月 8月	◇合唱	発声について、繰り返し学習をすることで、自然に合唱に参加できる姿勢をつくる。 歌詞の意味を汲み取りながら、音楽的表現に工夫することについて学ぶ。	・授業での練習態度 ・暗譜テスト ・感想文提出	・仲間と協力して真面目に取り組んでいるか。 ・誠意をもって授業に取り組んできた様子がうかがえるか(感想文)。
9月 10月	◇器楽(アルトリコーダー)	バロック式リコーダーの運指を確実に覚え、実際に曲を演奏する。また3人1組のアンサンブルをし、相手の音を聴き、合わせることを学ぶ。	・授業での練習態度 ・実技試験	・授業を疎かにしてはいないか。 ・運指を正しく覚えているか。
11月 12月	◇グループ活動(アンサンブル) 3人以上、6人以内のグループをつくり、与えられた課題曲と自分たちで選んだ自由曲を練習し、発表する。	必須課題は、アルトリコーダーによるアンサンブルとする。 自由曲を自主的に選び、その曲についての演奏方法などをグループごとに学び、適宜に打楽器などを効果的に使う。 他人の演奏を聴き、意見し合いながら切磋琢磨する態度を育む。	・グループ発表 ・発表鑑賞レポート提出	・授業を疎かにしてはいないか。 ・仲間と協力しながら自主的に行動しているか。 ・相手のことを思いやりながら音楽をしているか。
1月	◇日本の伝統芸能について学ぶ	教科書からの学術的な話だけではなく、実際に日本の伝統楽器を演奏することでその音色に親しむ。	・学習プリント提出 ・実技試験	・意欲的に授業に取り組んでいるか。 ・楽器を大切に扱っているか。
2月 3月	◇ミニマルについて 《クラッピング・ミュージック》 ◇鑑賞 映画「アマデウス」「人間ベートーベン」等その他の音楽(芸術)に関する題材をとりあげた作品や、それにつかわれている楽曲。	スティーブ・ライヒ作曲の《クラッピング・ミュージック》を用いてミニマル・ミュージックの構造について学ぶ。 また、実際に演奏することによって、ミニマル特有の音の「ズレ」を体感する。 映画の鑑賞を通して当時の時代背景や生活、曲などを無理なく理解する。また楽曲などに興味湧くよう配慮する。	・学習プリント提出 ・実技試験 ・鑑賞レポート提出	・意欲的に授業に取り組んでいるか。 ・授業時間を疎かにせず、安定した音楽を仕上げているか。 ・意欲を持って鑑賞に取り組み、教養を増やそうとしているか。

美術 I (指導と評価の年間計画)

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術 I	2	1	高校美術 1 (日本文教出版)	狩野永徳と聚光院

到達目標	美術の創造活動を通して美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を養う。 表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、色彩などの基礎的技術・日本における文化について学ぶ。
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	1. 美術を学ぶ上で大切な、色彩感覚、イメージの展開力を身につける。 2. 素材を生かし、作品作りの楽しさを学ぶ。 3. 歴史の流れで作品を鑑賞し、現代の私たちとの関係を探る。 中学美術流れも考慮する。写実的に表現できずに、苦手意識をもつ生徒が多い。 技術のみに偏らない幅広い美術の知識・感性を磨くことで、自由な発想をもって制作させる必要がある。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
---	--------	------	------	---------

4月	◇オリエンテーション ◇色彩の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 美術、デザインの分野の理解 「美術」の授業の説明をする デザインセットの道具の使用方法的説明をする 無彩色、有彩色、色の三要素などを理解する 混合、対比、補色など色同士の関係を知る 12色相環をスケッチに描く 	<ul style="list-style-type: none"> プリント スケッチブック 	<ul style="list-style-type: none"> 記入内容 指定された色を美しく塗る事ができるか 内容の理解度
5月 6月 7月	◇ポスタリゼーション ◇合評	<ul style="list-style-type: none"> パネルの水張り 下書きをする(グリッドによる画面分割) 色見本カードでイメージにあう色を選ぶ 面相筆と平筆を使い分けながら着色する。 お互いの作品の鑑賞をする 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価カード 取り組み 技術 作品 	<ul style="list-style-type: none"> 技法理解 色彩の工夫があるか 作業の美しさ、丁寧さ 自己の作品を客観的に見つめ、他者の作品の良さを感じ取れるか
9月 10月 11月 12月	◇木工用品をつくろう ペーパーナイフ ◇合評	<ul style="list-style-type: none"> 形の他にも動きや、機能がきちんと考えられているか、アイデアをデザインに取り入れ工夫する 型紙を作り木材を裁断する 面取り、ヤスリがけでなめらかにする 蜜蝋ワックスでつやを出す お互いの作品の鑑賞をする 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での練習態度 自己評価カード コンセプトシート 鑑賞プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 想像力を働かせて、作品をより良くする為の工夫をしているか 技法の理解 計画を立てて取り組んでいるか 自分の意見を伝えられるか
1月 2月 3月	◇美術鑑賞(日本美術) ◇水墨画を描いてみよう ◇合評	<ul style="list-style-type: none"> 文化財鑑賞。狩野永徳・長谷川等伯(安土・桃山時代に活躍した作家を中心に) 水墨画を和紙に描く。(文字とは違う表現・絵画の写しで練習後・描くモチーフを設定・制作) お互いの作品の鑑賞をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価カード ビデオ感想文 コンセプトシート 作品 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的情報を簡略化できているか。 構図の工夫ができてくるか。 はね・ぼかし・線の表現は豊かか。

書道 I

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道 I	2	1	新編書道 I (教育出版)	

到達目標	小・中学校での「書写」あるいは「習字」という観念にとらわれず、興味を持って「書道」へと移行し、実技と理論の両面から書に対する視野を広げる。
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」「篆刻」といった、書道の幅広い活動を通して、書作品や文字に対する関心を深めながら、表現と鑑賞の基礎的な能力を身に付けさせる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	書写から書道へ 漢字の書	・授業予定、用具用材の基礎知識、臨書の意義と学習方法、姿勢、執筆	・観察 (意欲、興味、関心)	・楷書の基本的な用筆法を理解し、表現できたか。
5	楷書の臨書 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」	・数種類の楷書の古典を臨書することにより、多様な用筆、運筆、字形のとり方があることを理解させる。 (半紙2字書・4字書)	・作品	・書風の違いを意識して表現することができたか。
6	「雁塔聖教序」 「造像記」	・書家や時代背景など、書道史についても触れる。		
7	ペン字	・楷書の基本	・作品	・丁寧に書けているか。
8	行書の臨書	・古典を絞って臨書し、行書の特徴や運筆、用筆を理解させる。	・観察 (意欲、興味、関心)	・行書の基本的な用筆や筆脈を理解し、表現できたか。
9	「蘭亭序」 「風信帖」	・字数や紙の大きさを変え、様々な形式の臨書作品に仕上げる。	・作品	・古典を創作に生かす工夫ができたか。
10	漢字創作	・楷書または行書による、古典に基づいた創作作品を制作する。(色紙・校内に展示)	・印稿、布字、印影	・書作品における落款印の効果を考えながら制作することができたか。
11	篆刻	・落款印 (名前の1字) を制作する。	・作品	・行の中心を通して書けたか。
12	ペン字	・漢字仮名交じり文のまとめ方		
1	仮名の書 いろはの単体 連綿、変体仮名 散らし書き 漢字仮名交じりの書	・仮名の成立過程と基本的な運筆、用筆、構成などを理解させる。	・観察 (意欲、興味、関心)	・仮名の基本的な用筆法を理解し、墨の使い方に留意しながら書けたか。
2	ペン字	・漢字、仮名の学習を踏まえ、構成にも配慮しながら詩文書を書く。(半紙・半切1/3)) ・実用的な書式	・作品	・漢字と仮名の調和に気を付けながら書けたか。 ・実用に生かそうとする姿勢が見られるか。

指導と評価の年間計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
家庭	家庭総合	2	第1学年	新家庭総合 ともに生きる 暮らしをつくる	新選 食品成分表

*家庭総合3単位を第1学年2単位、第2学年1単位で分割履修するものとする。

到達目標	
	人の一生と家族、食生活、衣生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験、実習、ワークショップ等を活用し、基本的な知識や技術を実践的・体験的に習得できるようにする。 ・ 社会の出来事に目を向け、関心を持ち、現在及び将来の生活について考える機会を意識的に設ける。 ・ 実際の生活の場で生きて働く力になるように、各学習内容を総合的に関連させるようにする。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	第2部 暮らしをつくる 2章 暮らしの中の「衣」 1 衣生活を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間と被服の関係を被服の起源や機能を考察することで確認する。 ・ 各国の衣生活について知り、被服の構成について理解する。 	授業への「関心・意欲・態度」、内容の「理解、知識の定着」「科学的な思考判断ができるか」といった観点に基づき、以下の方法により総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲関心を持って授業に臨み、よく聞き、重要事項が把握できているか。
5	2 衣服の材料を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被服材料の特徴について観察などを通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業観察 ・ 授業プリント提出 ・ レポート提出 ・ 宿題提出 ・ 作品・作品提出票の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に取り組み、基礎的な技術を習得しようとしているか。 ・ 科学的な考察ができるか。
6	4 衣服をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 布の構成について理解する。 ・ 被服製作実習 		
7	3 衣服の選択と手入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洗剤の働きと汚れが落ちる仕組みを理解し、被服材料に応じた手入れができるようにする。 ・ 組成表示や取り扱い絵表示の意味を理解する。 		
8			・ 1学期期末考査	・ 基礎的知識が身に付いているか。
9	第2部 暮らしをつくる 1章 暮らしの中の「食」 1 食生活について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の食事診断を通し食生活に関心を持ち、生活課題を見出す。 ・ 我が国の食生活の特徴や、気候風土に合った保存や加工技術などをとりあげ、食事の意義について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理実習記録提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲的に学習に取り組もうとしているか。 ・ 自らの食生活を客観的に省み、課題を見出し、改善充実しようとする意識が見られるか。 ・ 栄養素に関する正しい知識を得ようとしているか。
10	2 栄養と食品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養素の種類と機能について知る。 ・ 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を、自分や家族の日常食と関連させて理解する。 ・ 食品成分表を用いて栄養価計算をする。 ・ 献立を作成する。 		
11	3 食品の選択と取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活の多様化や食環境の変化と安全性、特に食品添加物、輸入食品の問題点を理解する。 		
12	4 献立と調理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理実習 (日常食の献立) ・ 食生活と健康との関連を理解し、食中毒や安全に配慮した調理操作を実践的に学ぶ。 		
1	第2部 暮らしをつくる 6章 快適な生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境問題について学習し、自分にできることを考える。 	・ レポート提出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活を振り返り、環境問題について考えられるか。 ・ 社会との関わりに関心をもてるか。
2	第1部 ともに生きる 1章 人の一生と発達 1 自分らしい生き方を考えよう 2 家族について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・ 青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力について理解する。 ・ 現代家族の特徴を理解する。 ・ 家事労働と職業労働の意義、違いを理解し、両性が協力し合い家庭を営むことの重要性について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期期末考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの家族のあり方や社会との関わりについて考えようとしているか。
3	3 家族・家庭にかかわる法律を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族・家庭の法律を理解し、家族関係のあり方について考える。 ・ 自分の生活と自分自身についてみつめ、生活設計をたてる。 		

体育（1年男子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健 体育	体育 I	1	1年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	・オリエンテーション ・新体力テスト	・授業の内容と諸注意を理解する・新体力テスト実施・自分の体力を知る。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。	グループのまとまり 正確性
5	・体ほぐしと 香里丘高校体操	・香里丘高校体操ができるように練習する。 ・ストレッチ中心	個人（理解度）	参加意欲 技能の修得度
6	・マット運動	(前転・後転・開脚前転・開脚後転 伸膝前転・伸膝後転・倒立・倒立 前転・ハンドスプリング・側転)	・スキルテスト	
7	・跳び箱	・跳び箱 ・基本的な跳び方		手と足の調和 息継ぎのタイミング
8	・水泳	・水泳（クロール）・キック、 プル、コンビネーション練習。	泳法テスト 25M タイム測定	
9	・水泳	・水泳（クロール）距離の泳ぎ込み とタイムトライアル	・トライアル	
10	・バスケットボール	・パス・キャッチ・シュートの技能 習得 ・2対1を初め簡単な攻めと守りを 理解し、技能を身につける。		個々の技の正確性 技と技の連続性
11		・3対3 ・4対4 ・ゲーム	・スキルテスト ・フリースロー ・ハンドリング	同年代の記録との 比較
12				
1	持久走	・諸注意 健康管理 ・試走 ・タイムトライアル		自己の生活における 健康管理・維持の方 法の習得
2			12分間走 距離走	ペースの維持
3				

体育（1年男子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健 体育	体育 I	1	1年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	・オリエンテーション ・新体力テスト	・授業の内容と諸注意を理解する・ 新体力テスト実施・自分の体力を知る。	「関心・意欲・態度」「 技能・表現」「知識・理解」 「思考・判断」の各 観点に基づき、下記の点 により総合的に評価する 。	グループのまとまり 正確性
5	・体ほぐしと 香里丘高校体操	・香里丘高校体操ができるように練習する。 ・ストレッチ中心	個人（理解度）	参加意欲 技能の修得度
6	・陸上競技	・短距離 50m走・100m走	・スキルテスト ・スタートダッシュの練習	
7	・水泳	・水泳（クロール）・キック、 プル、コンビネーション練習。	泳法テスト	手と足の調和 息継ぎのタイミング
8			25M タイム測定	
9	・水泳	・水泳（クロール）距離の泳ぎ込み とタイムトライアル	・トライアル	
10	・ハードル	・ハードリング （抜き足・フリ揚げ足） ・50mHの測定	・スキルテスト	個々の技の正確性 技と技の連続性
11	・走幅跳	中助走からの跳躍・記録測定	・スキルテスト	同年代の記録との 比較
12				
1	持久走	・諸注意 健康管理 ・試走 ・タイムトライアル		自己の生活における 健康管理・維持の方 法の習得
2			12分間走 距離走	ペースの維持
3				

体育（1年柔道）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健 体育	体育 I (柔道)	1	1年	現代保健体育	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての 具体的な取組 【指導上の留意点】	安全第一と相手を敬う心の育成を主眼として授業を展開する。 受け身の習得 固め技・投げ技の習得

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4 5 6 7 8	オリエンテーション 礼の精神 準備・補強運動 各種受け身の習得 固め技の習得	後方受け身・横受け身 前受け身 前回り受け身 (寝技) 袈裟固め、横四方固め 上四方固め	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実技テスト 実技テスト 試合	受け身の正確性・安全性 技の修得度 (意欲により階級を分ける)
9 10 11 12	立ち技の習得	膝車、出足払い 大外刈り、大内刈り 小外刈り 試合（足技限定）	実技テスト	取り側の引き手 受け側の正確な受身 技の修得度 (意欲により階級を分ける)
1 2 3	持久走	12分間走 2000m走 3000m走 シャトルラン	距離測定 タイム測定	運動の技能 意欲・態度

体育（1年女子ダンス）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健 体育	体育 I (ダンス)	1	1年	現代保健体育 (大修館)	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることによりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4 5 6 7 8	オリエンテーション 体ほぐし運動 ダンス 創作活動	新体力テスト実施 創作のための基本の動き 基本の動きテスト オリエンテーション グループの決定 テーマ、内容の決定 昨年の作品の鑑賞	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 受講状況の観察 実技テスト グループでの取り組み姿勢を観察	関心、意欲、態度 運動の技能 意欲、態度、協力
9 10 11 12	ダンス 創作	創作活動 グループ活動 中間発表 中間発表をふまえて作品の見直し	グループでの取り組み姿勢を観察 実技テスト	意欲、態度、協力 途中までの完成度 表現内容、技能
1 2 3		創作活動 グループ活動 発表 鑑賞	グループでの取り組み姿勢を観察 実技テスト ビデオによる	意欲、態度、協力 表現内容、技能

体育（1年女子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健 体育	体育 I	1	1年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	・オリエンテーション ・新体力テスト	・授業の内容と諸注意を理解する・新体力テスト実施・自分の体力を知る。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。	グループのまとまり 正確性
5	・体ほぐしと 香里丘高校体操	・香里丘高校体操ができるように練習する。 ・ストレッチ中心	個人（理解度）	参加意欲 技能の修得度
6	・マット運動	・ マット運動 (前転・後転・開脚前転・開脚後転 伸膝前転・伸膝後転・倒立・倒立 前転・ハンドスプリング・側転)	・スキルテスト	
7				
8	・水泳	・水泳（クロール）・キック、プル、コンビネーション練習。	泳法テスト 25M タイム測定	手と足の調和 息継ぎのタイミング
9	・水泳	・ 水泳（クロール）距離の泳ぎ込みとタイムトライアル	・トライアル	
10	・バレーボール	・オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの技能習得		個々の技の正確性 技と技の連続性
11		・アンダーハンドサーブ・オーバーハンドサーブの技能習得	・スキルテスト	
12		・ミニゲーム 3対3・4対4 ・ゲーム	・パス、サーブ	同年代の記録との比較
1	持久走	・諸注意 健康管理 ・試走 ・タイムトライアル		自己の生活における健康管理・維持の方法の習得
2			12分間走 距離走	ペースの維持
3				

体育（1年女子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健 体育	体育 I	1	1年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	・オリエンテーション ・新体力テスト	・授業の内容と諸注意を理解する・ 新体力テスト実施・自分の体力を知る。	「関心・意欲・態度」「 技能・表現」「知識・理解」 「思考・判断」の各 観点に基づき、下記の点 により総合的に評価する 。	グループのまとまり 正確性
5	・体ほぐしと 香里丘高校体操	・香里丘高校体操ができるように練習する。 ・ストレッチ中心	個人（理解度）	参加意欲 技能の修得度
6	・陸上競技	・短距離 50m走・100m走	・スキルテスト ・スタートダッシュの練習	
7	・水泳	・水泳（クロール）・キック、 プル、コンビネーション練習。	泳法テスト 25M タイム測定	手と足の調和 息継ぎのタイミング
8				
9	・水泳	・水泳（クロール）距離の泳ぎ込み とタイムトライアル	・トライアル ・スキルテスト	個々の技の正確性 技と技の連続性
10	・ハードル	・ハードリング （抜き足・フリ揚げ足） ・50mHの測定		
11	・走幅跳	・中助走からの跳躍・記録測定	・スキルテスト	同年代の記録との 比較
12				
1	持久走	・諸注意 健康管理 ・試走 ・タイムトライアル		自己の生活における 健康管理・維持の方 法の習得
2			12分間走 距離走	ペースの維持
3				

保健（1年）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健体育	保健	1	1年	現代保健体育	現代保健ノート（大修館）

到達目標	個人の健康は、集団の健康問題とのかかわりを抜きにして考えられないので、心の健康・薬物乱用・喫煙問題・生活習慣病・性成熟等の内容を学びながら、自分自身で自分の身を守ることができるように指導する。
到達目標に向けての具体的な取組	講義だけでなく視聴覚機材やその他の器具の利用で、内容がより理解しやすいようにする。 また、1年時に於いては、生徒にテーマを与えレポート作成をさせ、日常生活でおこる種々の問題点に対して興味関心を持たせ、自ら学習する力を養う。
【指導上の留意点】	個人生活や社会生活における健康・安全について関心・意欲を持ち、課題の解決を目指し考える態度を養い、課題の解決に役立つ基礎を理解し、知識を身につけているかを評価する。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	オリエンテーション 1.現代社会と健康 1.私たちの健康のすがた 2.健康のとらえ方	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・死亡率、平均寿命などの健康指標を通して健康水準の向上や疾病傾向を理解させる。 	ノート観察 期末テスト レポート提出	関心・意欲・態度 ・知識・理解
5	3.さまざまな保健活動や対策	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進のためには適切な意志決定や行動選択が必要であり、それらには個人の知識、価値観、人間関係等が関連していることを理解させる。 ・健康の成立には個人の行動とともに周囲の環境も深くかかわっている。国や地方自治体、世界的視野で様々な保健活動が行われていることを理解させる。 		
6	4.生活習慣病と日常生活行動 5.喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの考え方を通して生活の質や生き甲斐を重視する健康の考え方、個人の実践力の育成と環境づくりを理解させる ・健康日本21の内容を理解させる。 ・飲酒・喫煙による健康への影響や疾病との関連を理解させ、適切な意志決定と行動選択の必要性を理解させる。 ・喫煙による短期・長期の害と、受動喫煙がもたらす害を学び誘惑にうち勝つ手段を自ら考えさせ、将来をにやう世代を守る為の対策を理解する。 ・アルコールの人体への急性作用と過度の飲酒による健康への害を知り、飲酒を強要することのおろかさについて理解し、将来 節度のある生活ができるよう考えさせる。 		
7	6.飲酒と健康			
8				
9	7.薬物乱用と健康 8.医薬品と健康 9.感染症とその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用が及ぼす健康や社会への影響を理解させ、薬物乱用を決して行わないことの必要性を理解させる。 ・医薬品の有効性や副作用及び正しい使用方法について理解させる。 ・感染症の新たな問題を知り、感染予防の為の対策を考えさせる。 ・高校生の時期から感染割合が高くなるので予防策を個人レベルでもしなければならぬことを理解させる。 	ノート観察 期末テスト レポート提出	関心・意欲・態度 ・知識・理解
10	10.エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・エイズについての正しい知識を身につけさせ、感染予防対策を考えるとともに個人の適切な行動が必要であることを理解させる。 ・意志決定・行動選択の重要性を理解させる。 		
11	11.健康にかかわる意志決定・行動選択 12.意志決定・行動選択に必要なもの 13.欲求と適応機制 14.心身の相関とストレス 15.ストレスへの対処 16.自己実現	<ul style="list-style-type: none"> ・意志決定・行動選択のために必要なことを、具体例を用いて理解させる ・人間には様々な欲求があり、欲求が満たされない時には精神の変化が現れ、様々な適応機制が働き、精神の安定を図ろうとすることを理解させる。 ・人間の精神と身体は密接な関連を持っていることを身体的変化精神的変化の影響の両面から理解させる。 ・ストレスの多様な要因を知り、自分なりの対処法を考えさせる。 ・自己実現の欲求とその充足が精神の健康と深く関わっていることを理解させ、自己実現により達成感や生き甲斐が生まれること、自分らしさや個性が培われ精神の健康が増進できることを理解させる。 		
12	17.交通事故の現状と要因 18.交通社会における運転者の資質と責任 19.安全な交通社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止の為には自他の生命を尊重するとともに、交通事故には責任と補償があることを知らせ、事故防止には個人の適切な行動が必要であることを認識させる。 ・法的な整備、施設設備の充実など安全な交通社会づくりが必要であることを理解させる。 		
1	20.応急手当の意義とその基本 21.心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会環境をつくるための応急手当の意義を理解させる。 ・心肺蘇生法の原理や方法を理解し、実践できるようにする。（ダミーを使った実習） 	ノート観察 期末テスト レポート提出	関心・意欲・態度 ・知識・理解
2	22.日常的な応急手当	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活でおこる傷害や疾病に応じた適切な手当が実践できるようにする。 		
3	問題解決学習	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成のためのオリエンテーション 		